※令和４年度以降入学生用

学校番号	３０１４

令和８年度　工業科（都市住宅系　インフラ専科）

教科	工業	科目	（学）インフラシステム工学	単位数	２単位	年次	２年次
使用教科書	土木施工（実教出版）・土木構造設計１（実教出版）						
副教材等							

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

社会基盤施設は人々が安心安全に利用するために各種の構造計算のもとに設計され、その場の状況に合わせてつくられています。ここで必要とされる基本的な構造計算を土木構造設計１の内容より学び、つくるための技術については土木施工の内容より学習します。土木施工の内容については、２級土木施工管理技士補の合格レベルをめざし組み立てていきます。また、これらは２年次と３年次の総合的な学びの中で技術を身に付けます。

2　学習の到達目標

・社会基盤施設を安全につくるための材料や施工技術、施工管理について総合的に捉えられるようにする。
・社会基盤施設を安全につくるための基本的な構造計算や考え方について理解する。
・社会基盤施設の構造や施工方法について興味・関心をもち、意欲的に取り組むことができるようにする。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技術	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	・社会基盤施設をつくるための材料や施工技術、管理方法についての知識を身に付けている。 ・社会基盤施設を安全に設計するための構造計算についての知識を身に付けている。 ・社会基盤施設の構造設計と施工技術について、実際の構造物との関連付けができている。	・施工技術、管理方法についての基礎的な知識と技術を活用して、実際に行われている施工方法と関連付けて思考することができる。 ・構造計算についての基礎的な知識と技術を活用して、条件が異なる場合やさまざまな構造物に応用して解決しようと思考し計算や図示するなど表現することができる。	・社会基盤施設をつくるための施工方法について関心をもち、新たな施工方法について学ぼうとしている。 ・社会基盤施設の構造や安全性に興味・関心をもち、設計の学習に意欲的に取り組む姿勢がある。 ・主体的に学習に取り組むとともに、技術者としての心構えや態度を身に付けようとしている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元（題材）の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1学期	土木材料	木材 鉄鋼材料 歴青材料 高分子材料	a:土木材料の一般的な性質や土木工事での活用に関する知識を身に付けている。 b:各種材料の取り扱い方法について適切に思考・判断できる。 c:各種材料について意欲的に学習する態度を身に付けている。	定期考査 演習課題 小テスト	定期考査 演習課題 小テスト	課題提出 振返りシート
	土工・コンクリート工	土工計画 土工機械 土工の実施 コンクリート性質 コンクリートの配合設計 コンクリート施工	a:　各種工法や施工に関する基本的な知識を身に付けている。 b:　各種工法や施工の特徴について適切に思考・判断できる。 c:各種工法や施工について意欲的に学習する態度を身に付けている。	定期考査 演習課題 小テスト	定期考査 演習課題 小テスト	課題提出 振返りシート
2学期	基礎工・舗装工	直接基礎工 杭基礎工 地盤改良工 アスファルト舗装 コンクリート舗装	a:各種工法や舗装方法に関する基本的な知識を身に付けている。 b:各種工法や舗装方法の特徴について適切に思考・判断できる。 c:各種工法や舗装方法について意欲的に学習する態度を身に付けている。	定期考査 演習課題 小テスト	定期考査 演習課題 小テスト	課題提出 振返りシート
	施工管理と土木法規	施工計画 施工管理 安全衛生管理 工程管理	a:施工計画や管理に関する基本的な知識を身に付けている。 b:施工計画や管理の特徴について適切に思考・判断できる。 c:施工計画や管理について意欲的に学習する態度を身に付けている。	定期考査 演習課題 小テスト	定期考査 演習課題 小テスト	課題提出 振返りシート
3学期	構造物と力	構造物に作用する力 力のつり合い	a:構造物に作用する力やつり合いに関する知識や計算方法を身に付けている。 b:構造物の力の特徴について適切に思考・判断できる。 c:構造物に作用する力について意欲的に学習する態度を身に付けている。	定期考査 演習課題 小テスト	定期考査 演習課題 小テスト	課題提出 振返りシート

※　表中の観点について　a:知識・技術　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度